

聖書箇所:ルカの福音書 6章 39~45節

説教題: 良い実を結ぶ方

1 良い実を結びたくても

私たちは自分の人生にどんな意味があるかと考えています。「何か意味があるに違いない」と思っていますが、はっきりとした手応えはありません。ですから、私の人生には意味あると言えるようになるまで必死にがんばります。今日の聖書のことばで言い換えれば、「良い実を結ぶ人生」を目指して努力しているということかもしれません。

もし、良い実を結ぶことがなかったなら、自分の人生には何も意味がない。けれどももし良い実を結ぶことができたなら、私の人生に確かな意味を与えることができる。それが私たちの心の内にあることです。

では、どのようにしたら良い実を結ぶことができるのでしょうか。その事を考えていきます。

2 「良い木」と「良い実」

イエスはこう言われます。43,44節。「悪い実を結ぶ良い木はないし、良い実を結ぶ悪い木もありません。木はどれも、その実によってわかるものです。いばらかいちじくは取れず、野ばらからぶどうを集めることはできません。」

悪い木には絶対に良い実はならない。良い木だけが良い実を結ぶことができる。だからもし、良い実を結びたいと考えるなら、まずあなたは良い木にならなければならない。

良い木になることと、良い実を結ぶこと。どっちでもよいじゃないか。大して違いがな

いではないかと思うかもしれません。でも、イエスはきちんと木と実を区別して語っておられます。

なぜ区別する必要があるのでしょうか。皆さんはこんな経験をしたことはなかったでしょうか。例えば、聖書を少し戻って6章35節にこうあります。「ただ、自分の敵を愛しなさい。」それを聞いて、ある方はこう思います。「私はこの命令を守らなければならない。良い実を結ぶために、私はきょう自分の敵を愛することを決心しよう。」

熱心でまじめな方はそう考えます。すぐに自分の敵だと思ふ人の名前をノートに記します。神様、この人たちのことを愛せるように私を変えてくださいと祈り、行動します。敵だと思ふ人のところに自分から出向きます。何か困ったことはないですかと声をかけ、その人の力になろうとします。しかし多くの場合、うまくいきません。案の定、相手から冷たいことばを投げつけられます。こちらは犠牲を払って一生懸命やったつもりです。でも感謝のことばどころか、恩を仇で返すような仕打ちさえされます。そんなトラブルの連続で、愛するどころか、怒りで終わってしまう。

何が失敗の原因だったのでしょうか。信仰が弱かったからではないはずです。少なくとも最初の動機は純粋でした。失敗には必ず原因があります。

私たちは聖書を読んでいるつもりなのですが、都合の良いところをつまみ食いしながら読んでしまっている。良い実を結びたいと

思うのは結構だけれど、イエスは何と語っていたのかを実は正しく読んでいない。「木はどれでも、その実によってわかるものです。」イエスは木についてちゃんと触れてくださっている。良い実を結ぶのは良い木であると言ってください。

良い実を結ばなければと考える前に、まず考えなければならないことがある。そもそも自分は良い木なのか悪い木なのかを見分けることから始めなければならない。スタート地点はもう少しうしろにあるのです。

3 あなたは良い木ですか

(1) 盲人が盲人の手引きをすれば

もし自分が良い木なのか悪い木なのかを見分けようとせずに、行動を起こしたらどうなるでしょうか。イエスは一つのたとえを引いて教えております。39節。「いったい、盲人に盲人の手引きができるでしょうか。ふたりとも穴に落ち込まないでしょうか。」

もちろん、イエスは肉の目が見えているとか見えていないということを言おうとしているではありません。もっと別のことです。41、42節。「あなたは、兄弟の目にあるちりが見えながら、どうして自分の目にある梁に気がつかないのですか。自分の目にある梁が見えずに、どうして兄弟に、『兄弟。あなたの目のちりを取らせてください』と言えますか。偽善者たち。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうしてこそ、兄弟の目のちりがはっきり見えて、取りのけることができるのです。」

目の中にちりが入ることはあります。しかし、目の中に梁が入ることはどう考えてもありそうもないことです。仮に本当に目の中に梁が入ることがあれば、気がつかないはずは

ありません。間違いなく気がつきます。

しかしイエスは言うのです。「あなたの目には梁が入っている。ほかの人の目の中にあるちりを見て、『取らせてください』とお節介を焼く前に、まず自分の心配をなさい。ほかの人を助けようとする前にあなた自身が大変な状態になっている。だってあなたの目の中に梁があるのですから。」

盲人のたとえでは、ふたりとも穴に落ち込んでしまいました。自分だけが落ちるのならまだ良いでしょう。問題なのは、もし自分の目の中の梁に気がつかずに人のお世話をしようとする、自分だけではない、相手まで穴に引きずり落としてしまうということです。ですから、きちんと梁のことを確認しておかなければなりません。

(2) 自分の目の中に梁がある

みなさんの目の中には梁があるでしょうか。それともそんなものはありませんと答えるでしょうか。

「自分の敵を愛しなさい」との命令を聞き、忠実に実行しようとしてしばしば失敗してしまうことを先ほど言いました。なぜ失敗してしまったのか。こんな事を言うとショックを受けるかもしれませんが、はっきり言いますと、失敗したのはその人が悪い木だからです。だから悪い実を結んだのです。

なぜ悪い木になってしまったのでしょうか。イエスは言われます。自分の目の中の梁に気がついていないから。自分の目の中の梁を取りのけようともせず、その前にほかの人の目の中のちりを取ろうとしたから。その結果、盲人が盲人の手を引くようにして穴に落ちてしまった。

これと似たような失敗を皆さんは経験さ

れているはずで。ということは、皆さんは全員悪い木であって、目の中に梁はそのまま残っているということになります。

4 目の中の梁とは何か

いったい、目の中の梁とはなんでしょう。人から言われるまで、まさか自分の中にそんな梁などあるはずがないと思い込んでいました。ですから、考えてすぐにわかるようなものではありません。しかしそれではお手上げになります。なにかヒントがなければ考えようもない。幸い、イエスはきちんとヒントを与えておられます。41節。「あなたは、兄弟の目にあるちりが見えながら、どうして自分の目にある梁には気がつかないのですか。」

ここには順番があります。そもそも、人の目の中にあるちりに気がつかなければ、ちりを取ろうとも思いません。次に、気がついたとしても取ってあげようと思わなければ「兄弟。取らせてください」と口に出してまでは言いません。ということは、これは単なる親切心というレベルの話をしているのではなさそうです。

具体的に考えましょう。ほかの人のことばとか、ほかの人のやったことが非常に気になったり、あるいはかちんと来るのが、皆さんの中にもあったと思います。極端な場合、あの人と間違っていると息巻くこともあります。自分はきちんとした基準に立って公平に判断しているつもりでいます。自分自身には何も問題がないと思って疑いません。

しかしよく考えてみると不思議です。なぜ気になってしょうがないのでしょうか。なぜ自分だけかちんと来たのでしょうか。なぜ感情的になったのでしょうか。なぜ息巻いてしまった

のでしょうか。もちろん、悪いのは相手の方かもしれません。でも、自分以外のほかの人たちは冷静に受けとめています。けれどもなぜか自分だけが落ち着きません。冷静でいられません。ある人の目の中のちりが、なぜか自分にだけ気になるのです。

理由があります。自分の中に相手の人がもっているものと同じものがあるからです。相手の目の中のちりと同じものが、自分の中にもある。それまではふたをしたままにしておいたものでした。闇に葬ったままでした。それがいつの間にか梁という大きなものになってしまっていたのです。その梁が激しく反応して、かちんと来るのです。

ですから、自分の中にどんな梁があるのかわからないという方は安心してください。自分が何もしなくたって、ほかの人が教えてくれます。なにか「かちん」と来ることがあれば、心が落ち着かないものがあれば、そこに自分の梁があると思って間違いない。

5 梁を取りのけて実を結ぶ

最後に考えます。いったい、どうやったら梁を取りのけることができるのでしょうか。良い実を結ぶ者となるためには、梁を取りのける必要があります。不思議なことに、イエスは梁を取りのける方法についてははっきりとは語りません。その代わりに45節でこう言うのです。「良い人は、その心から良い物を出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を出します。なぜなら人の口は、心に満ちているものを話すからです。」

エレミヤ書17章9節に「人の心は何より陰険で、それは直らない」とあります。つまり私たちはどうあがいても目の中から梁を取りのけることはできないということです。

良い倉から良いものを取り出したいのですが、いつも悪い倉から悪い物を取り出すしかない。それがいつも口をついて出て来てしまいます。

もし話がここで終わってしまうのなら、希望がありません。絶望して終わりです。泣いて終わりです。もちろんそんなはずはありません。解決があります。イエスは言われました。「いま泣く者は幸いです。やがてあなたは笑うから。」

なぜ泣くのでしょうか。目の中に梁があると気がついたからです。そして、目の中にある梁を取りのけなければと思うのに、できないと知ったからです。それで泣きます。でも主は言われます。そのような者こそ幸いです。やがて笑うから。なぜ笑うようになるのでしょうか。主が私たちの代わりに梁を取りのけてくださるからです。

主はいつたいどこにおられると言うのでしょうか。どこか遠い山の上ですか。いいえ、そうではない。私たちを苦しめている梁のところにおられる。だから言われるのです。あなたの中にある梁に目を向けなさい。主はそこに立っておられる。あななたがたが見たくないと思っているところに目を向けなさい。主はどこにいるのですか。あなたの梁のところにおられる。その梁を背負われて、私たちをそこから助け起こそうとしている。それが私たちの主です。

おわかりでしょうか。良い実を結ぶのは私たちではなかったのです。この方が、私たちの梁というところに降りて来てくださり、内側から造りかえ、良い実を結ばせてくださるのであります。

主の御名をあがめます。